【緊急支援活動報告】

支援統計

- ３月１１日　２２時１１分　最初の救援依頼が入る。
- 以降アレルギー支援ネットワークとして、３月は２６件、４月は４２件　５月は３６件（5/26 現在）の被災者支援を行った。
- 発災当日から１５日までの最初５日間で被災者（千葉２・茨城１・福島４・宮城８・岩手１・不明１）から１７件の救援メール（全て幼児の食べ物について）が入る。
- ３月１５日までは被災者やその友人・親族がアレルギー支援ネットワークの救援活動を自主的に探して問い合わせが入り支援にいたるが、１５日以降、問い合わせが激減する。
- 激減の理由は、要支援者がアレルギーに特化した支援活動を知らないのが最大の原因ではないかと思われた。このため、支援物資輸送第２陣（3/20～3/25）から、「アレルギーでお困りの方へ」のポスター掲示や協力団体（主に行政/自治体）へのアレルギー患者への支援要請も呼び掛けた。
- その後、再び３月２１日から岩手県を中心に救援依頼が入り始めた。
- 5/7 現在、ポスター掲示は計６６５箇所ある岩手県の避難所のうち８３％、福島県いわき市では１５５箇所のうち８０％を完了した。（宮城県は「あっぷるんるんくらぶ」として行政に依頼するという方針）

対応方法（３月：緊急支援）

- メール・電話・FAX で連絡が入り、詳細（現在地・アレルギー症状・食糧の備蓄量など）を聞き取り。
- 宅配が届く地域や近くに患者会がある地域：業者で支援物資を直接宅配、又は会を通じて支援依頼。
- ガソリン、道路状況で宅配業者が動いていない地区
  - ①　最寄の支援物資集積拠点（仙台市・盛岡市・福島市）を伝え、取りに行ってもらう。
  - ②　①が難しい場合は、その都度、支援物資を受け渡しできる場所（宅配業者集積所・市役所・社会福祉協議会・病院など）へ支援物資を配送し、個人に引き渡し。
  - ③　①も②も困難な場合は、アレルギー支援ネットワークの担当が東北入りした時や、現地患者会のメンバーが直接支援物資を手渡し。

４月以降の被災者支援について（緊急支援から徐々に生活支援へ）

- 課題：①アレルギー患者の所在がつかめない
  ②支援があることを知らない
  ③集団生活の避難所のなかでアレルギーについて言い出し難い環境と心理状況
- 対策：避難所を中心に要支援者の発掘・アレルギー被災者支援の認知を広める活動を、現地患者会とボランティア人員で行う。同時に、行政・医療（保健師など）・メディア（TV・ラジオ・新聞）にも働きかける。
- 事務局：現地支援活動を実行するための、支援物資調整・データ収集・ボランティア募集・他団体と連絡／調整・支援ドナー対応（個人や企業等）を専従職員ならびに事務局ボランティアで行う。
- 現段階で、ボランティア動員数のべ７０人（事務局：４０人・被災地：３０人）で支援活動を行った。

| 被災地ボランティア活動 | |
|---|---|
| 期限なし | 1名 |
| 2週間以上 | 3名 |
| 2週間未満 | 26名 |

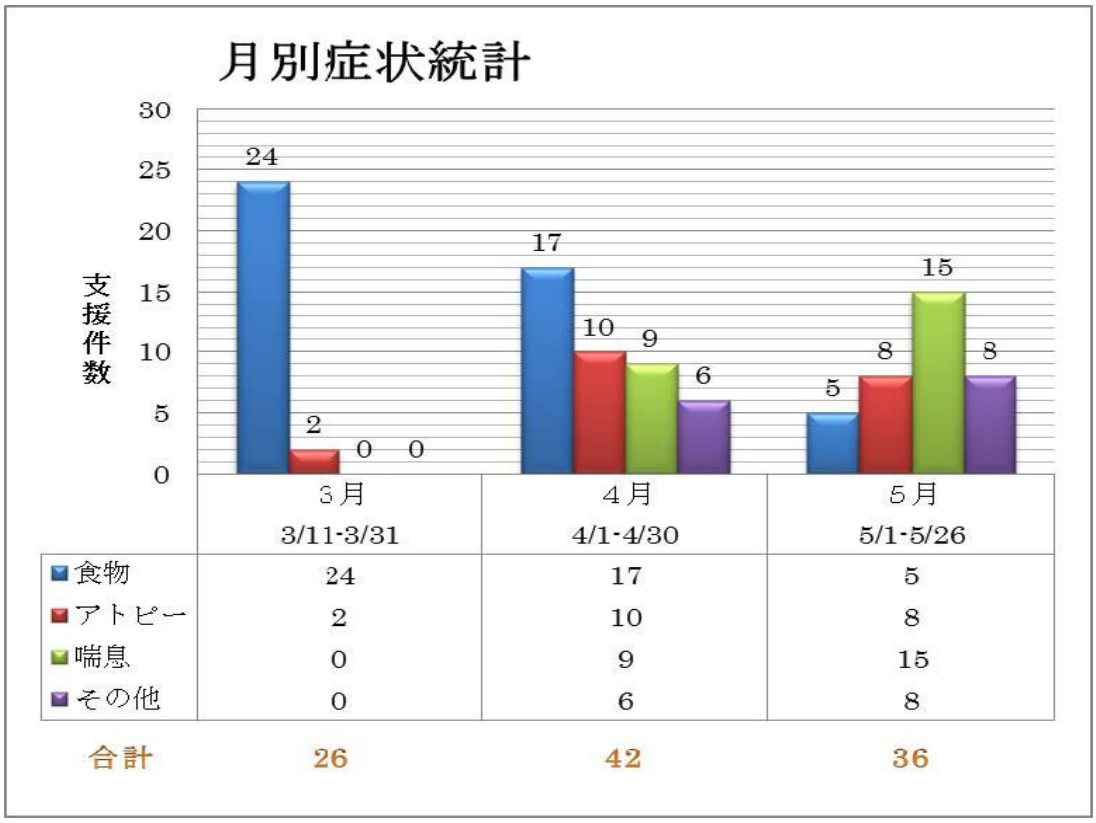
５月の支援活動（生活支援が主に）

・ＧＷ明けから仮設住宅への引越しが本格化。同時に避難所閉鎖数増加のため、今までのボランティアによる避難所を訪問し、要支援者への呼びかけはこれで一旦終了。

・仮設住宅の個人を巡回訪問する保健師やＮＰＯ団体に支援をつないでもらうように働きかけを行う。

・被災者が仮設住宅で個々に必要な情報をメディア（テレビなど）で得る事が出来る環境になり、メディアでの呼びかけ反応が今まで以上に増加した。

月別・症状別の支援要請件数の推移~~グラフ（~~5 月 26 日現在）




| | ３月 3/11-3/31 | ４月 4/1-4/30 | ５月 5/1-5/26 |
|---|---|---|---|
| 食物 | 24 | 17 | 5 |
| アトピー | 2 | 10 | 8 |
| 喘息 | 0 | 9 | 15 |
| その他 | 0 | 6 | 8 |
| 合計 | 26 | 42 | 36 |

※その他は、化学物質過敏症、鼻炎、スキンケアの相談、病院の相談、痒みの相談など